

## 令和 2 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

<p>生徒の就労を通じた潤いのある社会的自立の実現をしっかりと支援する学校</p> <p>生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、より適切で効果的な指導・支援をするために進化する学校</p> <p>連携・発信 生徒の一人ひとりの卒業後を見すえ、地域、関係機関等との連携のもと、本校の実践と成果を広く社会に発信する。</p> <p>選択・実現 社会の変化や企業ニーズ等をふまえつつ、生徒の自己選択の力を育成するなど、継続性を見すえた社会参加（就労）を実現する。</p> <p>検証・改善 社会の変化や多様性に迅速に対応するため、柔軟で機動力を備えた職員集団となるよう継続的に組織体制を検証し、改善する。</p>
--

### 2 中期的目標

<p>1 教育活動の外部への発信と地域、関係機関との連携・交流の充実</p> <p>(1) 本校の取組みを積極的に外部に発信し、社会全体に障がいのある生徒のチャレンジを支援するよう働きかける。</p> <p>(2) 高等支援学校や高校等とのスポーツ交流をはじめとする他校との交流機会を拡大する。</p> <p>(3) 生徒間、教職員間の交流を軸に、共生推進教室設置校との連携を安定的なものにする。</p> <p>(4) 地域と本校の協同によるコミュニティ「たまがわランド」及び「たまがわフェスティバル」等を計画的に運営し、地域に愛される学校をめざす。</p> <p>2 より適切で効果的なマッチングを基本とした進路指導体制の確立及び生徒の社会的自立を見すえた教育活動の充実</p> <p>(1) 生徒一人ひとりのニーズをふまえたマッチングにより就労率の維持、向上を図るとともに、離職率 5 % 以内（昨年度比 3.6 % 減）を継続するなど、関係機関との連携による卒業生の就労継続支援を充実する。</p> <p>(2) 「主体的・対話的な深い学び」を軸に個別性を大切に授業づくりに取り組むなど、生徒のキャリア発達につながる支援教育の充実を図る。</p> <p>(3) キャリア発達支援の観点を重視し、生徒の卒業後を見すえ、自立活動をはじめとする個に応じた指導・支援体制を構築する。</p> <p>3 今後の社会の変化に適切・迅速に対応できる、進取の機運に富んだ校内体制の確立</p> <p>(1) 関係機関との連携のさらなる充実、教職員間の意思疎通を図り、「チームたまがわ」として校務に取り組む機運を醸成する。</p> <p>(2) イノベーションの観点をふまえた教育活動の検証、改善を進めることにより組織の活性化を図る。</p> <p>(3) 校務の効率化を図り、健全な同僚性のもと、シェアリング等の観点を重視した組織づくりを推進する。</p>
---

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [ 令和 年 月実施分 ]	学校運営協議会からの意見

### 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育活動の外部への発信と関係機関との連携・交流	<p>(1) 本校の取組みを外部に発信するとともに、関係機関とのネットワークを充実させる</p> <p>(2) 他校との連携・交流・支援</p> <p>(3) 共生推進教室設置校との連携</p> <p>(4) 地域に根ざした学校教育活動</p>	<p>(1)</p> <p>ア 本校の教育活動の発信力向上（ホームページ等の活用を含む）</p> <p>イ 障がい者就業・生活支援センターやハローワーク等の関係外部機関との連携</p> <p>ウ 全国関係機関からの視察・見学を積極的に受け入れる</p> <p>(2)</p> <p>ア 高等支援学校をはじめとする知的障がい支援学校高等部との部活動を軸とした活動の充実を図る。</p> <p>イ 高等支援 5 校間の連携のさらなる充実</p> <p>(3)</p> <p>生徒間、教職員間の交流の機会を充実する</p> <p>(4)</p> <p>ア 「たまがわランド」の取組みの継続と事業所の見学・視察の受け入れ日を重ね合わせるなどの計画的な運営を進める</p> <p>イ たまフェス文化の部の充実、地域等への周知を進めるなど、本校への訪問機会の拡大につなげる</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・校長ブログ更新（年間 100 回以上を継続） * 昨年度 115 回</p> <p>・中学校等 3 年生を対象とした体験授業実施（7 月）</p> <p>イ 各機関との懇談会等のべ 40 機関（R1：36 機関）</p> <p>ウ 年間のべ 90 人以上の事業所等の見学者を継続（R1：95 人）</p> <p>(2)</p> <p>ア ・全国障害者スポーツ大会大阪府代表チーム（バスケットボール）をはじめとする競技スポーツの拠点校の一つとなり、練習場所、指導体制等をコーディネートする。</p> <p>イ 高等支援学校教員連絡会を本格的に開始（年 2 回）</p> <p>(3)</p> <p>・共生担当者による授業記録等の作成（授業日ごと）</p> <p>・本校生との交流会を開催（前・後期）</p> <p>(4)</p> <p>ア ・野菜販売、収穫体験、定食の調理、校外清掃等を年間で 10 回以上開催を継続（R1：11 回）</p> <p>・保育園との交流を継続（全学年）</p> <p>・福祉事業所への訪問（ハンドケア（6 回）、音楽部交流（1 回）</p> <p>・交流者総数 150 人以上（保育園児を含む）</p> <p>イ ・たまフェス文化の部、来場者数 800 人以上（R1：807 人）</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 より適切で効果的な進路指導体制の確立・生徒の社会的自立をみずえた教育活動の充実</p>	<p>(1) 就労率の維持及び定着率の向上</p>	<p>(1) ア 新規実習及び新規就労受入れ事業所開拓 イ マッチング機能の充実 ウ 高校卒業求人など、幅広く求人情報を収集し、よりきめ細やかなマッチングにつなげるとともに、卒業後のアフターフォロー体制を充実する</p>	<p>(1) ア 新規実習及び就労受入れ事業所 50 社以上 (R1:35 社) イ ・卒業生の巡回相談等を実施(7月終了予定) ・1年後の離職者5%以内を継続する。(R1:3.6%)</p>
	<p>(2) 確かな学力の育成</p>	<p>(2) ア 新学習指導要領をふまえた授業の充実 イ 個別性を重視した「わかる授業」づくりへのアプローチの確立。 ウ ICT 機器を活用した授業充実にに向けた環境整備を進める。</p>	<p>(2) ア 学校教育自己診断「授業を工夫してよくわかるように教えてくれる」生徒の肯定的回答90%以上継続(H29:96%、H30:90%、R1:96%) イ 「チームティーチング力向上」「生徒の主体性を高める」をテーマに研究授業を実施(12月) ウ ・短焦点プロジェクターの導入(前期) ・Wi-Fi環境等の整備(年度内)</p>
	<p>(3) キャリア教育(キャリア発達支援)及び教育相談機能の充実</p>	<p>(3) ア キャリア発達支援を基盤とするキャリア教育の充実 イ 教職員によるキャリア教育への理解の浸透 ウ 臨床心理士、スクールソーシャルワーカー等の外部専門家と連携の充実を図る</p>	<p>(3) ア 1年生対象のキャリア教育計画を検証し改善(年度内) イ 校内学習会の内容(自立活動、個別の教育支援計画等)にキャリア発達支援の観点を焦点化する ウ 専門家との連携の充実により、引き続き、昨年度の不登校生徒数を減少する(R1:14人)</p>
	<p>(4) 発達支援の視点を柱とした自立活動の充実</p>	<p>(4) ア 今年度より活用するたまがわノート(仮称)の活用の充実 イ アセスメントの観点を重視した自立活動の充実 ウ 生徒の参画による相談室の整備</p>	<p>(4) ア 次年度のTノートの改善に向けて検証し、改善版を作成(2月末) イ 認知機能トレーニング(コグトレ)等の発達支援の観点をふまえた自立活動を計画的に実施(週2回程度) ウ 生徒会の参画による相談室の活用(5月より)</p>
	<p>(5) 生徒会活動、部活動の充実</p>	<p>(5) ア 生徒の主体性を育成し、委員会活動等を活性化する イ 部活動加入率の向上等、活動のさらなる充実</p>	<p>(5) ア ・各委員会活動の発表の場を設ける(前後期) ・「あいさつ運動」の参加生徒数を拡大(昨年度比10%) イ ・部活動内容の幅を広げるなどの工夫を行い、加入率80%以上を継続する(昨年度84%) ・全国レベルの大会への出場を実現する ・他校との合同練習(大阪代表チーム含む)の機会創出(8回以上)</p>

<p>3 進取の機運に富んだ校内体制の確立</p>	<p>(1) 校内研修の充実</p> <p>(2) イノベーション委員会をはじめとする教科・分掌横断的な取り組みの充実</p> <p>(3) 人材育成の推進</p> <p>(4) ワークライフ・バランス</p>	<p>(1) ア 支援教育の専門性、学習指導要領の内容をふまえた計画的・効果的な研修の実施 イ 人権に係る内容の充実を図る ウ 校内研修の内容の精選を図る</p> <p>(2) ア イノベーション委員会の活動の充実 イ 授業公開月間において研究授業の充実及び相互参観の徹底 ウ SSWをはじめとする専門家、外部機関との連携の充実</p> <p>(3) ア 新転任者を対象とした、校内研修を充実するなど、OJTのさらなる充実を図る。 イ 比較的経験の浅い職員をミドルリーダーとして育成</p> <p>(4) 昨年度の時間外勤務3割減達成をふまえつつ、引き続き、シェアリングの観点を重視した仕事の分担を進める</p>	<p>(1) ア 各種研修の受講者アンケートの回答(平均 4.0 以上) イ 障がい者の権利、外国籍及びルーツのある人、性的マイノリティーなどをテーマとする校内研修、学習会を開催する。 ウ ・外部講師による「生徒の発達支援」、「チームティーチングの充実」をテーマとする校内研修、学習会を開催する。</p> <p>(2) ア ・イノベーション委員会の検討テーマ決定及び設置(6月職員会議において提示) イ ・教員授業相互見学の充実(1人 2.2 回以上)(R1:2.0 回) ウ 専門家も交えた「チームたまがわ」の体制を後期開始(10月)までに構築</p> <p>(3) ア 13 項目の校内研修を早期に実施(4月上旬) イ ・学年、分掌等における OJT の活性化 ・首席、学年主任、分掌長等による人材育成の観点からの意見交換の場を設定(前・後期)</p> <p>(4) ア 時間外勤務の一人当たりの年間平均時間数を維持する (R1: 一人平均 196 時間(年)、16 時間(月)) イ 分掌等の業務のシェアリング、簡素化等を検討。前期終了時(11月)に運営会議等で検証。</p>
-------------------------------	---	--	---